

●9月議会 個別質問●



いちらは議会だよりの「議員の小部屋」を担当しています。

# 小沢みかの市議会報告



市議会議員  
小沢みか

ブログ検索⇒「ミカのメイクオフ日記」— 出会い、想いなどを素顔になつてつづります。

## 行政評価は市民参加で…市原でも「事業仕分け」を

私たちの生活に大きな影響を与えている市の政策や個々のサービス。方向性はこれでいいの？無駄なサービスはないの？方法は妥当か？コストは適正か？それらを検討するのが行政評価です。  
実際に市ではどのように行っているのか、9月議会で質問しました。

### ◆外部評価の導入は

まだ不十分

市原市の総合計画は、平成17年から平成27年までの11年間の長期計画です。

それに基づいて3年ごとに策定される「実施計画」でさらに具体的な施策が定められ、個々の行政サービスはこの実施計画に従って毎年予算がつけられています。

市では、計画の達成度を内部で評価していますが、あくまで自己点検・自己評価にとどまっています。

かろうじて外部の有識者らによる総合計画審議会で評価していますが十分ではありません。もっとオープンな場での評価が必要とされています。

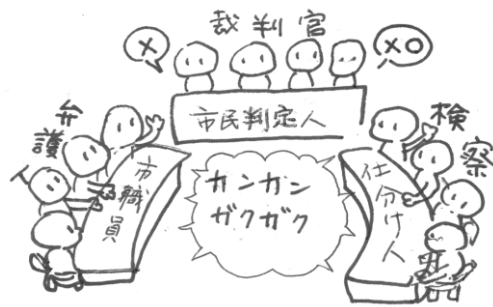
### ◆事業仕分けで意識改革を

「事業仕分け」は、民主党政権になって国政レベルで行われたことで全国的に知られるようになりました。

わたしは、東京で開かれた模

擬事業仕分けに市民判定人として参加しました。

一方、四街道市では、平成22年より市民を判定人とした事業仕分けを行っています。わたしは8月に一般公開されたその事業仕分けを傍聴し、市原市も導入する必要性を強く感じました。



(四街道市の場合) 市職員が説明し、外部の仕分け人が追求し、無作為抽出の市民が判定をします。

公開の場で議論することで、まず行政職員の意識改革が進みます。また、住民が評価に主体的にかかわることで、サービスを受けるだけではなく、納税者として自らがまちづくりの担い手となるきっかけにもなります。

「事業仕分け」は、市民と行政との新しい協働の形です。

市民判定人は誰がなるのか、どの事業を仕分けるのか、など課題が多いことは確かですが、模索しながらでもまずは一歩、進めてほしいと市に要望しました。



8/5 四街道市の事業仕分け

当日は3会場に分かれ、丸一日かけ、合計21事業について仕分けが行われました。

### 今後どうなる？

#### 「ヘルメット議会」



TVニュースで一躍話題となった「ヘルメット議会」。市議会本会議場の吊り天井のボルトの溶接部が何力所か破断していることが明らかとなり、9月の定例会へは議員・市職員は急ぎよヘルメットを持参。傍聴者は立ち入り禁止となりました。

設計・改修工事は今年から来年にかけて約7千4百万円の予算で行うとのこと。工事中の本会議をどこで行うのか、また本庁舎の建て替え計画に本会議場を含む議会議場の建て替えがからんでくるのか、どちらも今のところはっきりしていません。

### 前市議会議員

#### 岡村由美子さんを偲ぶ…



いちらは市民ネットワーク  
代表 桑田尚子

「市民ネットに行けば力になってくれると聞いたのですが」。よく聞くと岡村さんを慕っての相談電話です。市原で派遣村を開いた時、相談に乗っていたのが岡村さんでした。彼女は誰に対しても優しく、とりわけ弱い立場の人には友人のように接し、みんなを支え分かち合う社会実現のため活動してききました。

その彼女に乳癌が見つかったのは4年前。悩んだ末に選択したのが、在宅で治療しながら仕事を続けるという道でした。その後も、議員としての活動、市民相談、県ネットでの子ども部会のリーダー、朝の駅頭での速報の配布など、これまで以上に精力的にこなしてきました。手抜きできない性格なので、何事もとことん調査して議会でも質問してきました。仲間や家族は彼女の体調を気遣いつつも、彼女の意志を尊重し活動を支えました。

しかし昨年12月末に転移が見つかり、3月議会と6月議会を欠席しましたが、体調は回復せず、議員として辞職する決意をした矢先での訃報でした。「皆様の付託を受けながら議員としての任期を全うできなくて申し訳ない」と最期まで気にかけていました。わたしたちも申し訳なく思っております。

遺された市民ネットの仲間たちは、これからも彼女が多くの方々の心に残した「優しさ」を引き継ぎ、地域活動を広げてまいります。